



ふるさとを知ることが “村づくり”の始まりです

「わがふるさと——岩室村」を再認識して、よりよいふるさとづくりをしよう——と昭和63年度からスタートした生涯学習推進事業の「おらが村岩室ふるさと講座」もことしで3年目。毎年参加者から大評判をばくしていますが、ことしこのふるさと講座——6回のプログラムが生まれ大好評のうちに4回のプログラム（講座）が終わりました。ことしのメニューは、現地探訪を主体にした体験講座がほとんどだったせいか、4回の講座ともほんとうに大勢の参加者で大盛況でした。そこで今号では、参加したかったが参加できなかった人や講座について知りたい人たちのために、ほんの一部ですが、このふるさと講座についてご紹介しましょう。

特集／おらが村岩室ふるさと講座

その1

6月24日
参加者40名

庭師「猫（美石）」の足跡 とその幻像を求めて

六月二十四日に開かれた第一回の講座は、「庭師「猫」の足跡を追跡しよう」と四十名の受講者が集まり現地探訪が行われました。この日は朝九時三十分公民館へ集合。通称猫（ねこ）と呼ばれていた庭師が築庭したといわれる石瀬浄専寺庫裡南庭、石瀬渡辺宅庭園、岩室綿々亭庭園（椋松園）をそれぞれ散策しました。まず最初に訪れた浄専寺庭園。ここは今年、県の文化財にも指定された庭園で、京風文化と技法を基本に、狭い土地を地割で壮大に表現したもので、まるで京都の庭園にいるかのような錯覚を起しました。次に訪ねた渡辺家庭園、築庭されてから百年は経



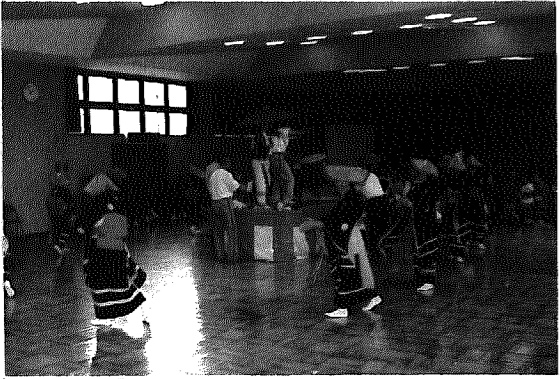
京風文化が随所に感じられる猫庭園



石添一儀さん
(岩室・55歳)

「京風庭園の
雰囲気漂う」
いやあ、すばらしい庭園を見せてもらいました。各国ともその庭木、組石などがパランスよく配置されたすばらしい庭園で、一般家庭の庭とは一味も二味も違った何ともいえない雰囲気を感じられました。

っているとのことですが、庭木、組石などのパランスは全然崩れておらず、参加者はその素晴らしさに見入っていました。そして最後は綿々亭にある椋松園、この庭は梅と松を主木にした庭園で、その庭風から京文化の華やかさを参加者は各々に感じとっていたようです。



賑やかに繰り広げられた間瀬盆踊り

その2

公開講座
7月15日
参加者150名

「花火囃子とやぐら太鼓実演」

身近かにある郷土芸能のすばらしさや、そのルーツについての説明が竹内巳作さん（和納12区）の演奏を交えながら行われ、参加者らは大きくうなずきながらメモをとる姿もみら

「改めて郷土芸能にふれる」
私は、和納出身ですので懐かしく参加しました。このように古くからある芸能はとてもすばらしいものですし、又、それを守り続けていくということもすばらしいことだと思います。本当にこの日は楽しい一日を過ごせました。



園崎タマイさん
(岩室・64歳)

「改めて郷土芸能にふれる」
私は、和納出身ですので懐かしく参加しました。このように古くからある芸能はとてもすばらしいものですし、又、それを守り続けていくということもすばらしいことだと思います。本当にこの日は楽しい一日を過ごせました。



竹内巳作さんの笛を交えて説明する佐藤教授

特集／おらが村岩室ふるさと講座